



癒される時

今年の寒い冬が終わり、植田の緑が清々しい季節になりました。風光に恵まれた阿南市に生まれ育った私は、街へ出掛けるより、自然豊かな野山や海に行くと心が癒されます。

そして、美しく区画整理された近所の田んぼ道を散歩することが大切な日課となっています。



領家町 川田 紹子さん

感心しています。私の幼少のころは遊具も何もない時代。それでも、豊かな自然と放任された自由がありました。集団で海や山を駆けたり缶蹴りやかくれんぼをして、暗くなるまで遊んだ記憶が蘇ります。懐かしく楽しい思い出です。

孫息子とも、よく田園を散歩します。毎週日曜日になると、門前より

「ばあちゃん」と大きな声を上げて飛び込んでくる孫息子。トラクターやコンバインが好きで、「あれは何、どうして?」と何にでも興味を持ちます。矢張り早くに質問を受けながら、手をつないで一緒に歩いたり走ったりすると、とても晴れやかな気持ちになります。

日々の生活では、認知症防止のためにも外出を心がけ、いろいろな人と交流する機会を持つことを大切にしています。

次は、横見町の吉田當代さんをお願いします。

市民文芸

短歌

阿南市文化祭
短歌大会 作品

「わたくしの生まれた九月はどうでしたか」
母に参らす灌頂の水
福崎 孝子

満月を仰ぎつつ聞く虫の声いま夫在らば夫の
あらばと
入谷五十鈴

夏祭り上る花火の音冴えて色とりどりに消え
ゆく火玉
島田美代子

病む友が言の葉細く吹きぬ子規の歌集をしき
りと恋いて
横山みつ枝

そうめんの薬味に入れた茗荷の子口にしゃき
つと涼味広がる
山田ノブコ

水槽の水を換えんと採る筈にピチピチ目高の
いのちが躍る
湯浅佐智子

隣家なる犬の哭声声高き夜半独りならずと我
を眠らす
常松 英江

俳句

阿南市俳句連合会選

鯉の子も群れなしのぼる白魚川
田中 栄子

この下に断層ありや青き踏む

品川 重晴

出土せし武人の埴輪下萌ゆる

河野 柳史

潮干狩まづ先人の籠覗く

神野 春月

春泥に戯れし猫帰り来る

数藤 恵子

初雛のおわす座敷の仄明かり

庄野 年美

一握の米研ぐ暮らし水温む

田村比斗志

紅梅に教わりし径迷いけり

湯村 陽子

自販機にお礼言われし梅見月

表原 樫

水温む流れの上の勅使の間

中野 郁

川柳

阿南川柳会
高木旬笑 選

一言を添えて野菜が届けられ

二階千代美

身構えて流暢を聞く電話口

武田 敏子

人ごとと思えぬ脳外友見舞う

林 満子

女房の天気図を読む難しさ

原 公美子

騙されておこう流れに乗って見る

野村 敏子